

## 第 11 回環境教育・環境学習ネットワーク会議議事録要旨

日 時：平成 25 年 5 月 29 日（水） 15:00～17:00

場 所：市役所 1 号館 3 階会議室 B

出席委員：高橋会長、鈴木副会長、稲委員、宇佐美委員、内船委員、小松委員、  
高橋直人委員、奈良谷委員、野崎委員、原口委員、依田委員（11 名）

事務局：環境政策部環境企画課（小澤課長、笠原主査、高橋、山中）

傍聴：1 名

### ◆ 会議の流れ

#### 1 開会

#### 2 議題

（1）平成 25 年度のトライアル事業「相互交流を生かした人材育成講座」について

#### 3 報告

（1）平成 25 年度環境教育・環境学習に関連する事業の庁内調査について

（2）「よこすか里山びらき」について

#### 4 その他

### ◆ 議題 1 の要旨

（1）平成 25 年度のトライアル事業「相互交流を生かした人材育成講座」について

#### 【事務局から説明】

平成 25 年度「相互交流を生かした人材育成講座」について、第 10 回会議の委員意見をまとめた事務局案について、内容を確認し、意見を交わす。本日の時間で今年度の企画の方向性等を決定する。

### 高橋会長

ただいま資料 1 について説明があったが、審議に入る前に、質問事項等あれば挙手のうえ質問をお願いしたい。

（質問なし）

### 高橋会長

それでは、資料 1 「相互交流を生かした人材育成講座」についての審議に入りたいと思います。ご意見がございましたら挙手のうえ発言をお願いしたい。

## 依田委員

小学校教諭むけの講座ということでテーマが3つあるが、その中で私としては、案②のごみ処理施設、水道施設の見学に重点をおいて選んでいただきたいと思う。その理由としては、地球温暖化問題、省エネ問題あるいは再生エネルギーといった関連する大きな問題が含まれているということ。そして6年後には横須賀市として新しいごみ焼却施設ができるということで、子どもたちの関心を持つテーマだと思う。その点でこの②を選んでいただきたいと思う。

## 高橋会長

平成25年度の講座案、「小学校教諭向け」、「市民、市民活動団体向け」、「企業向け」の3つあるが、小学校教諭向けに関しては①～③の案のうちからどれか1つということでもいいか。

## 笠原主査（事務局）

はい。

## 高橋会長

今、依田委員から、横須賀市としてもこれから新しいごみの焼却場を作らないといけないうが、それにあたって地球温暖化の問題もあるということで、ぜひごみ処理施設の見学というご意見があった。

開催日が夏休みとなっているので、あまり時間はないと思われる。計画を早く立てていかなければならない。

## 笠原主査（事務局）

学校の先生方へ事業が出来上がった段階でPRするにしても、6月にはご連絡したいと考えている。既に色々な研修などの予定を組まれている先生もいると思うので6月でも遅いが、少しでも早く情報を発信して募集をしたい。

## 高橋会長

依田委員、ここには「ごみ処理施設」と「水道施設」の両方が書かれているが、両方はいかがか。

## 依田委員

両方でもいいと思う。ただ時間的な問題があるので、対応によってはごみ処理施設のみということでもいいだろう。内容について、施設見学だけでは、役に立たないと思う。ごみ焼却場がなぜ必要なのかということ子どもたちに教えるためにも、あらゆることを考

えて、ごみ焼却場を新設する状況までを踏まえて話をしてもらうのがいい。そして、なぜ新しいごみ焼却場を作らなければならないのか、その焼却場はどんな構造でどのような内容であるかということ、細かく説明していただくのがいいと思う。先生も、子どもたちにごみの処分に関して、地球温暖化問題も含め、省エネについても説明ができるようになるのではないかと。新しい処理施設ができるまでのこの6年間は、大切な時期だと思う。そういうことからこのテーマを選んでいただきたい。

#### 高橋会長

廃棄物の専門ということで、奈良谷委員いかがか。

#### 奈良谷委員

施設は市内の施設を予定されているのか。

#### 笠原主査（事務局）

小学校で見学する「アイクル」を想定している。児童と同じ話を先生方に聞いていただいても、聞き慣れていると思うので、児童以上の知識を話していただくのがいいと考える。施設の場所のごみ処理場では見学ルートが整備されているアイクルがいいかと考えている。

#### 高橋会長

今、学校教育では何年生がアイクルに行っているのか。

#### 笠原主査（事務局）

4年生が行っている。

#### 高橋会長

子どもたち全てがアイクルに見学に行っているのか。

#### 野崎委員

アイクルか南処理工場のどちらかに行っている。

#### 原口委員

4年生の社会科の学習ですが「ごみ」「水」というかたちで特化して学習できる。必ず「ごみ」をやらなくてはいけないというわけではなく、「うちの学校は事情により水に特化」ということも可能。ただ、比較的、横須賀市内の学校では、「ごみ」を取り上げている学校が多く、アイクルや南処理工場に見学に行っている。ただ4年生だけなので、4年生を担任しなければ先生方は行く機会はない。誰でも4年生を担任する可能性はあるので、そうし

た点では意味があるのではないかと思います。

#### **奈良谷委員**

施設見学でアィクルはかなりの方が見ている可能性が高いので、産廃処分場見学などを中に入れた方がいいのではないかと。また、水道施設見学は下水を想定されているのか。

#### **笠原主査（事務局）**

下水施設を想定している。

#### **奈良谷委員**

下水道施設がいいと思う。ごみ処理については、アィクルは見たことがある方が多いということであるので、実状を話すということであれば、見学に行かなくても集中した場所で講義を行うのがいいのではないかと。

#### **依田委員**

今、アィクルが話に出ているが、私はごみ処理施設、南処理工場を重点的に考えている。アィクルは資源の回収が主に行われているが、ごみ焼却処理は行われていない。両方をやるにしても、新しいごみ焼却処理場の稼働が6年後に始まる予定なわけであるから、稼働までの出来事を聞いて理解しておくことが環境教育に非常に役立つと思う。ただ、あそこに行くと「素晴らしい」「よく燃えている」「臭い」と感じるだけでは、施設の意義はわからないと思う。その辺を深く学んだ方がいいだろう。横須賀市のごみ処理の歴史を学ぶといいと思う。

#### **鈴木委員**

テーマがごみ処理施設、水道施設ということで、どこの施設かなと考えていた。講師が市職員ということなので、市の処理施設が対象ということか。例えば横須賀市内には、色々な民間の施設があるが、そちらの方へ手を伸ばすということはないのか。

それとも例えば、我々が出しているごみについても、分別されて再生化するその流れをアィクルでは説明されるが、目的が何なのかということをはっきりしないと、それこそ見学だけで終わってしまうのではないかと。

例えば工業団地に行けば焼却施設もあるし、あるいはリサイクル施設もあるので、その辺まで広げるのかどうか、あるいは市で管理している施設をターゲットにしているのか、事務局からご意見をお聞きしたい。

#### **笠原主査（事務局）**

この案を立案した時点では、特に事業者の施設は考えていない。企画への協力を容易に

得ることができるという視点で、市の施設を提案した。同じごみ処理施設ということで、今、意見は②に集中している。私の方からはアイクルを提案したが、南処理工場の方が有効的ではないか、またこういった部分も打診してみてもどうかというお話をいただければ、当然、そちらの方向でもあたってみたい。

また学校の先生のご希望で、市の施設がいいということもあると思うので、今の時点では市の施設の範囲以内で考えているが、ご提案いただきもう少し幅広くということであれば、再考したい。

### 高橋会長

車で移動すれば、アイクルと南処理工場の2カ所は可能だろう。

### 野崎委員

先程、奈良谷委員から話が出たが、市の施設の他に県の産業廃棄物の施設がある。そちらは学校でも見学に行かないと思うし、横須賀市の職員の方でも実際に見学に行かれた方は少ないと思う。横須賀市内にある施設だから、一般廃棄物ではないが、常に知っている市の施設以外のものを身近で見ることが可能になるので、それを入れるのはいかがか。どういう場所にどういう物が作られて、どういう物が捨てられているのかということをお先生方に見ていただくのも、それが一般廃棄物とどう違うかということを知っていただくのも勉強になると思う。

### 奈良谷委員

なぜ県の産業廃棄物施設を言ったのかというと、施設の規模とか土地の誘致、自然を使って作ったことがよくわかると思う。また、横須賀市は、現在は市内で埋め立ては行っていないが、埋め立て地はどうしても必要となってしまう。そういったこともわかる。どうせやるなら、入れた方がいいと思う。学校の授業では産廃処分場の方まではやっていないはずなので、広がりという点と、身近にあるという点では検討していく余地があるのではないか。

### 高橋会長

見学したい場所がたくさんあり、全部を盛り込むのは難しいが、小・中学生が対象となると、自分が出しているごみの行方がどうなっているということが一番中心となるので、どうしても一般廃棄物の処理処分になると思う。でもやはり、産業廃棄物も間接的には自分たちが出しているごみになる。それが同じ市内にある、しかも神奈川県が横須賀市内にあるということなので、その理解も大事かと思う。

小学校の先生方対象は、その他に「馬掘自然教育園」、「里山」が案としてある。欲張って全部は無理だが、講座の内容的な話は「里山」は後ほど報告もあるので、「馬掘自然教育園」

はいかがか。内船委員、やるとしたらどのような内容になるか。

#### 内船委員

「馬掘自然教育園」は水路があり、山林が残っていて、三浦半島の元々ある自然をなるべくそこで保全していこうというコンセプトで50年以上に渡って開園している施設になる。そういう中で自然に触れていただいて、それぞれの山林や水辺の環境を体験していただきたい。それにプラスαとして、博物館運営課として、そういう教育園を維持していく意義もあるので、付け加えることができたらと考えている。

#### 高橋会長

普段、学芸員は常駐はしていないのか。

#### 内船委員

普段は施設管理のスタッフがいるのみで、学芸員は常駐していない。

#### 高橋会長

こういう見学会を企画すれば、博物館から行っていただいて説明をしていただけるということか。

#### 内船委員

はい。何名説明に行かれるかはわからないが、対応できる。

#### 高橋会長

これからはちょうどホテルの時期かと思うが。

#### 内船委員

正に自然教育園で、6月に観察会が行われる。

#### 高橋会長

事務局として、先生向けの講座はどれか一つに、今日の会議で絞ってしまうということを考えているのか。

#### 笠原主査（事務局）

はい。意見が一本になるということはないので多数決かもしれないが、一本に絞らせていただきたいと思う。

## 高橋会長

その他ご意見があればお願いしたい。

具体的にどの施設を見に行くかというのは事務局にお願いすることになると思うが、この3つのうちの2番でよろしいか。

では2番がいいと思う方は挙手をお願いしたい。

( 8 名 挙 手 )

## 高橋会長

8名の挙手があった。

手を挙げられなかった方は保留ということか。それとも代案か。

## 内船委員

里山案に賛成。

## 稲委員

里山案に賛成。

## 高橋会長

多数決の結果、今年度の先生向け講座は、ごみ処理に関する講座を実施することとする。

## 笠原主査(事務局)

今、色々なご意見をいただき、県の施設という意見が多かったので、その辺りも関係部局と調整しながら、また1カ所ではなく2カ所行かれるかどうか。また2カ所となると都合上、市のマイクロバスで一度に移動することとなるとバスの許容範囲があるので人数に限りがあるが、その方向で具体的に企画を進めさせていただく。

## 高橋会長

市は見学会をする際、アイクルと南処理工場の2カ所行っていると聞いている。

そして、ねらいの中にただ見学するだけではなく、そこに集まった人同士のつながりを持つということが、それぞれ書かれている。この部分をこれからもぜひ進めていきたいということだが、この辺に関して何かご意見やご提案をお願いしたい。

## 宇佐美委員

人同士のつながりの持ち方ではないが、学校の授業でどう子どもたちにかえっていくかということを考えると、先生方にこれがどう授業で生かしてもらえるかということに、ぜひつなげていきたい。それには、ネットワーク会議の皆さんとか、指導者の皆さんと教員が、

授業がどうあるかという、つながりをぜひもっていただきたいと思う。私は②番に賛成と手を挙げたが、個人的には①番や③番にもすごく興味がある。ただ、授業にかえっていくというところでは、学校の先生方から見て、②番がかえりやすいかなということで挙手をした。したがって、施設の見学にしても、私は依田委員のご意見がすごく大切だと思う。私たちが、その施設の見学をして、「すごいな」と思うだけではなく、どうしてそういう施設があるかということ先生方に知っていただき、子どもたちにかえしていただきたいし、そういうことを意識した見学づくり、その後の交流という場にしていただきたい。

### 高橋会長

今の話に関連するが、例えば講師は市の職員になっているが、ごみの関係は環境学習の指導者の中にも専門家がたくさんいるので、そういう人にも参加していただいて、基本となるところは市の職員が説明して、それから人数を小分けにして、そこに環境教育の指導者が付いて回って説明すればもっと細かく説明できるし、そこに一つの交流もつながりも出来てくるのではないかな。前回も話したが、横浜市ではガイドボランティアということで下水処理場などに市民の環境に詳しい人がボランティアとして出て、小学校や我々が見学に行ったときの説明役に加わってくれて、少人数でそういう説明をしてくれている。講師としては市の職員かもしれないが、これにプラス、市民活動をしている環境教育の指導者などがスタッフとしてサポートするというようなことも考えていただければと思う。

### 小松委員

宇佐美先生がおっしゃったのはまさにそのとおりだと思う。

私は、「私がこの講座を受けて、目の前の子どもたちに授業をするとした時に、どういうことを言ったり、情報を与えてあげたりできるのかな」と考えた。上下水道やごみの基本的な部分は教科書に書いてあり、それを見れば子どもたちも頭では理解をする。そこから更に一步突っ込んでいくには何が必要なのか考えたときに、こちらがわくわくしながら教えることが、必要となる。我々小学校教諭が、色々なお話を伺うときに、「えっ、そうなの」ということがたくさんあることが重要だと思っている。そのためには、今、仰っていただいたが、市の職員の方も必要だが、そうではない立場の方々が「実は、こうなんだよ」とか「これがこういう風につながっているから、ここなんだよね」という、いわゆる教科書には載っていないようなこと、その方々がこれまで実感してきたようなことをたくさん話していただく、プラス施設を見ることで、我々教員は「あーそうなんだ」「そうしたら授業で教科書の何ページかのところで、この話題に膨らませれば、子どもたちの興味を惹きつけられるかな」とか、実際の授業の姿がイメージできる。そうすると自然とねらいの下に「受講者同士のつながりを持つ」と書いてありますが、「そう言えば、あの方があの時に、ああいうことを言ってくださったので、あの方に連絡を取ってみよう」とか「電話をして伺おう」とか「お手紙出してみよう」というふうに子どもたちが主体的になるところにつ



ながら。どうしても教科書をメインとして学習を進めようとなると、子どもたちが受け身になってしまう。受け身でやったものは、とりあえず知識として入るが、子どもたちが大きくなり、次の世代の担い手となっていくというところまで残るか、となったときに、なかなか残してあげられないのかと思う。そういうふうに住組んでいくためには、まず受けるこちらが、わくわくするような「もっと聞きたい、もっと知りたい」となるような中身になると、とてもいいのかと思う。講師だけではないのですが、そのような内容になると、すごくわくわくして、聞きたくなるのではないかと思う。

### 野崎委員

1番のことだけではなく、他の部分にも関係してくるのだが、去年も企業の研修に私たちも参加したので、対象者をもう少し自由に、流動的にしてもらいたい。先程先生方の中にも自然関係に興味を持っている方もいらっしゃるようであるから、先生方でも市民活動団体の講座に参加できるとか、自分が必要とするところに参加できるようなかたちを取ることはできないかと思う。

一番の理由は、2番の対象が「市民、市民活動団体」、講師も「市民活動団体」となっている。市民活動団体あるいは市民同士の交流というのは、この人材育成講座でなくても連絡会があったり、環境フェスタがあったり、色々なところでここに書いてある紹介の仕方、あるいは交流、情報提供は既に年内で何回かやる機会がある。私も市民活動団体の一メンバーとして自然系の活動をしているので、他の市民団体には呼び掛けて一緒に交流する機会はあるのだが、一番は学校の先生方に、あるいは市の職員の方に、市民活動団体の活動を体験していただく、あるいは、資料の内容には「活動にお試し参加」、ねらい・目的は「活動の場の提供」と書いてあるが、市民活動団体の活動の場を提供して、しかもお試しで自然の中で活動に参加していただく、そういうかたちで活動の理解を学校関係者の人がしてくださると、そこから子どもたちの環境教育の場の提供や具体的な参加の場も提供できるようなつながりができると思う。そのため、市民活動をしている側から発言すると、先生方にもお出でいただきたいので、対象を緩やかにという要望を出させていただいた。

### 高橋会長

2番に関しては、市民活動団体がやっているもので、参加する方がその気になればいくらでも機会は作ることができる。今、大森課長が出席しているが、市内の自然環境団体の交流会が昨年出来上がり、それぞれが自分の予定している半年間のイベントに参加できるというのができており、市民活動団体、市民、一般の誰でも参加できる。イベントの一覧は、ホームページでも見ることができる。対象の2番に相当するものは市が中心となってやらなくても機会は十分ある。

## 原口委員

内容の部分で、小松委員、宇佐美委員からも、施設見学だけにならないようにとの話があったが、「授業へ生かすための振り返り」の部分が必要になってくるのではないかと思う。こうした行動をする際に内容のところの施設見学だけではなく、生かすための振り返りをどのようにしていくのかを詰めていく必要がある。2施設行くと、施設見学に時間が掛かってしまい、振り返りをどうするかたちで行うことができるか疑問がある。

例えば見学に行った後に、どちらかで座学ができるようなところで、受講者同士が話し合いながら、①にも「プログラムの提案」とあるが、授業へ生かすためにはどうしたらいいのか、お互いに話し合いながらイメージしていくのも方法としてあるのではないかと思う。

これから内容の部分は事務局で詰めていかれると思うが、そういったところも綿密な内容にさせていただくといいのかと思う。また、講座を紹介する際にも、ぜひそうしたことを入れていただくと、ただの施設見学ではなく、先生方のニーズにあわせて、「こんなわくわくするようなかたちでできるのか」、「こうした見学をすると授業で生かせるのか」という内容が分かり、先生方が参加しやすいのではないか。

## 高橋会長

イベントを行う際の時間だが、お昼をまたいでやるのか、午前中だけ、あるいは午後だけなのか、その辺はいかがか。先日の観音崎ですと、最後時間が足りなくなり受講者同士のつながりの場の時間がなかったと意見があったが、午前中のみで内容を欲張るとどうしてもその時間が取れなくなってしまう。

## 笠原主査（事務局）

時間はまだ決めていない。どれが一番、先生方に参加していただけるものか。

## 高橋会長

委員の皆さん、いかがか。午前中で終わらせる、午後だけで終わらせる、お昼を挟んで午前、午後行うか。私の所属する活動は、だいたい9時半、10時から始めて午後2時半、3時くらいまでとお昼を挟んだ活動が殆ど。先生方は夏休み中、このような研修会があると思うが、いかがか。

## 原口委員

だいたい半日単位となっている。一日はハードルが高い。

## 高橋委員

小松委員いかがか。

### 小松委員

半日が多い。一日となると、「どうしようかな」と迷う先生方も多いと思う。

### 高橋(直)委員

目的のところに「つながりを持つ」とあるが、先生同士のつながりは薄いものなのだろうか。または、元々知り合いなのか。市民向けの事業などでは、お昼時間を挟んで、お昼を食べることによって、色々な会話を楽しんで、どんどん仲良くなっていくということがある。先生がつながりを持つという部分を考えると、お昼を挟むというのもいいと思うし、「忙しくて無理」、「ある程度つながりがあるのでいい」というのであれば、半日でもいいかと思う。

小学校の先生とひとくくりになっているが、ベテランの先生なのか、初心者の先生なのかということによっても、また違ってくるのかと思う。施設見学に何回も行っている先生は更に上のものを求めたいと思われるだろうし、初心者の先生はどんなことでも貪欲に色々なことに取り組みたいのだからと思うので、その辺りも難しいと思う。

### 高橋会長

稲委員いかがか。

### 稲委員

夏季休業中の研修は半日単位で、午前中ある講座を受けて、違う講座を午後受けてということが多く、一日単位の講座を設けたときに皆さんどのような反応をされるのか、慣れていないので分からない。敬遠されてしまう可能性もあるかと。でしたら半日でまずやった方がいいかと思う。

### 高橋(直)委員

たくさん先生の来ていただきたいということであれば、半日の方がいいかもしれない。

### 高橋会長

そうであれば、内容は欲張らないことが重要だ。

つながりを持つというのをねらいとするなら、詰め込んで幾つものというのは大変だと思う。

### 奈良谷委員

昨年、8月1日に観音崎でやったメンバーはかなり若い方が多かった。

### 高橋会長

野比川でやった時も若い先生が多かった。今の話からすると当面は半日実施がいいか。

### 笠原主査（事務局）

いただいたご意見によると、2箇所は内容が多すぎるように思う。例えば一箇所見て、その後振り返りをするのがいいのではないか。

### 高橋（事務局）

市のごみ処理施設には講堂があるので、そこで振り返りの話し合いをすることもできる。

### 高橋会長

今日の審議はこの1件だが、その他何か意見があればお願いしたい。

### 内船委員

参加者同士の交流という面で、昨年の観音崎での講座に参加して、グループ単位でガイドの話聞きながら、参加したグループの中で、自然と話を聞いた内容以外にも別箇所発見したのに関して、お互い話が生まれたり、参加者独自の視点をお互い共有し合える、瞬間が幾つかあったかと思う。ガイドをしてくださった方は、時間や進行の管理があり、交流や自然と生まれる発見をすくうところまでは、時間的にもできなかったと思う。

今回の小学校の先生方を中心とした講座の中で、先生方が学校に持ち帰りたい発見や感動を生み出す手法として、単純な施設見学プラスαが必要だという意見が出た。プラスαは何か必要なのか、例えばその施設管理者の方の話以外に色々な立場の方から、そこで説明をいただくという時間にするのか、もしくは、ワークショップ的な参加者同士が自由に気付いたことを言い合えるような時間を大切にするのか、どちらの方が先生方にとってはより大きい研修会にできるのか。そういったことを考えていくと、テーマも「見学」という名前にするのか、「ごみ処理施設場を考える」などにするのかによって、イメージが変わってくるのではないかと感じた。

### 高橋会長

単なる見学で済ませないために何か工夫が必要となる。

アイクルには体験コーナーがある。クイズなどもあるのだろうか。

### 奈良谷委員

クイズは進行される方に委ねられていると思う。

### 高橋会長

それでは、今日の審議事項「相互交流を生かした人材育成講座」実施にあたって、小学校教諭対象のテーマは②ごみ処理施設見学を中心に考えていただき、時間は半日で事務局

の方でまとめていただきたいと思います。

◆報告1の要旨

(1) 平成25年度環境教育・環境学習に関連する事業の庁内調査について

【事務局から説明】

平成25年度に各部局で実施する環境教育・環境学習に関連する事業の調査について、結果報告を行った。

高橋会長

それでは、事務局から説明があった内容につきまして、ご質問があればお願いしたい。  
野崎委員、いかがか。

野崎委員

これは平成25年度の事業の調査であって、昨年度の実績ではないということでもいいか。

笠原主査（事務局）

はい。

高橋会長

色々な部署で色々なことをやっているということが、この表からわかる。この表は組織で並べられているが、これを内容的にまとめるとどうなるのか、分野別にしたらどうなるか、そのようなまとめ方もあるかと思う。事務局でこの表を加工や整理することは考えているか。

笠原主査（事務局）

具体的なことは考えていないが、部局間の連携で一つの事業を単体でそれぞれ行うのではなく、事業と事業のつながりがあるので、手を結びできないかと働きかけをするなど活用していきたいと思う。今、ご提案いただいた分野別なども対応してみたい。

高橋会長

可能であればお願いしたい。それでは、報告事項1はよろしいか。

( 質 問 ・ 意 見 な し )

◆報告2の要旨

(2)「よこすか里山びらき」について

【事務局から説明】

5月25日(土)に実施された「よこすか里山びらき」について、当日の会場や体験の様子  
の写真を交えて、プログラムの説明などを行った。

高橋会長

市内の環境活動団体の交流の場ができたことによって、顔が見えるようになった。団体の  
名前があってもどんな団体か分からなかったもので、それぞれがそういう活動をやっている  
というのが分かるようになり、しかも活動をホームページでこの先半年間の予定がわかる  
ようになった。

それでは報告事項2件終了したので、事務連絡事項を事務局からお願いしたい。

◆事務連絡

(1) 意向調査の提出について

(2) 環境企画課の取り組みについて

保育園における環境教育指導者派遣事業および環境体験事業「観音崎ウォークラリー」  
の紹介

(3) 環境月間イベント「ECOギャラリー」について

( 事 務 連 絡 終 了 )

高橋会長

ネットワーク会議第2期の会議は今回が最後になる。簡単な感想を一言ずつお願いした  
い。副会長の鈴木委員からお願いする。

鈴木委員

色々活発なご意見や事務局の配慮があり、徐々にではあるが皆さんと交流ができた。

奈良谷委員

知っていただきたい側と学校側の本質がまだ絡んでいないというところが見え隠れして  
いる。今日もそういうところがあった。本来ならそこを突っつかなくてはいけないのだが、  
上手くお役に立てていないという感じがした。しかし、この会をもってもらい、環境を知  
ってもらいたい側からすると、だいぶ進展はして良かったと思う。皆さんのお話が聞けた

り、聞いていただいたりと、ありがとうございました。

### 野崎委員

環境教育指導者として学校へ伺う機会があり、呼んでくださった先生方と環境についての話はできるが、この場で先生方が基本的に広くどういうことを考えていらっしゃるか、あるいは願っていらっしゃるか聞くことができ、先生方からのご意見を色々興味深く学ばせてもらった。非常に有意義な会議に参加させていただいたと思っている。ありがとうございました。

### 原口委員

小学校現場に関わっていただきながら環境教育をしていただく中で、小学校の先生方がどういう思いをもっているのかを真摯に受け止めていただいていることをこの会議で感じていた。すごく有難いと思っている。学校は学校だけでは成り立たない部分がたくさんあり、子どもたちの学びは、色々な方から学ぶことが一番豊かになっていくと思うので、ぜひこうした会議を大事にしたい。私は現場を離れてしまい、学校のことを思い出しながら、話している状況だった。今の学校現場にいる先生の話聞くことも勉強になった。とても大事な会議だった。ありがとうございました。

### 依田委員

直接、生の声を聞くことができた。色々な環境学習の話を知っているが、ここ2年間地球温暖化問題や省エネの問題が少し希薄になってきている感じを受けている。従って、こういう会議へ積極的に出て発言して、より良いものにしていかなければならないと痛感した。

### 稲委員

二期やらせていただき徐々に色々なことが実現しつつあり、素晴らしい会議だと思う。私は、環境教育のことを色々体験させていただいたり、教えていただくことを通して、子どもたちがどう積極的に環境について今の子どもたちなりに関われるかを常々考えて授業をしたり、子どもたちと接している。子どもたちなりに環境のために何かできること、学んだことをすぐに生かして何かできることをやれることが大事だと思っているので、今後もそういう視点で関わっていければと思う。

### 宇佐美委員

この会議に何回か出させていただく中で、だんだん色々なことが見えてきて、非常に有意義な会議に参加させていただいたと思っている。それと共に学校にどうつないでいくかが大事であるし、お役に立てたらと思っている。今日も25年度のトライアル事業では

教育委員会との連携という話が出ていたが、そういう部分で積極的に関わってお力になればと思う。ありがとうございました。

### 内船委員

二期目の一年間を振り返って、二回欠席をしてしまい、なかなか直接意見が言えなかった時もあった。一年間の中で一番印象に残ったのは、このネットワーク会議の一つの成果である講座に何回か参加させていただいて、参加者として同じ参加者の方々と参加して感じたことなどを話し合えたこと、共有できたことが、私個人としては新鮮な体験をさせていただいたと思う。ありがとうございました。

### 小松委員

度々欠席をし、申し訳ございませんでした。今日も子どもたちと授業をしてから出てきたが、稲先生もおっしゃったように、子どもたちが気付いたときに行動ができるようになることが我々の目指すところで、我々が見ているところで子どもたちが即座に変わってくれるのが希望である。しかし、なかなかそこまで到達しないところが現実だ、それはそれでいいのかと思っている。逆に、色々な種を撒いてやり、どこかで引っ掛かってもらえばいいなということが、環境の部分に限らず、小学校段階だと思っている。現在、小学校にスポットを当てていただいているのは非常に有難いが、その種を撒いた様々なものを子どもたちが中学生、高校生になって更に社会に出ていくときにも、また更にばら撒いてあるものがあると、それをたくさん踏んでいって色々な意識の高まりにつながっていくのかなと思う。まずは小学校からというのは有難いところだが、今後そういった視野も含めてこういった場で話し合いが出来ればいいのかかなと思っている。今後共よろしく願います。ありがとうございました。

### 高橋(直)委員

私も教育委員会に席を置いているが、学校の先生方とこのようなお話をする機会が殆どなく、社会教育、学校教育どうしても分かれてしまう部分があるのだが、学校の先生方、そして色々な立場の方のお話が伺えて、とてもためになり、参考になった。環境教育も社会教育の一つである。ここが一つ大きなスタイルで動いていくということは、他の分野でも色々な立場の方たちによって、学校と社会教育が連携し合ってより良い社会を作っていくということにつながっていく、そのモデルケースになるのではと思った。ありがとうございました。

### 高橋会長

最後になったが、横須賀市で環境教育指導者派遣事業が定着し、これが非常に環境教育、特に小学校に有効に与えているのではないかなと思う。その後、この会議ができ、この会議



のように、環境教育に携わっている色々な方々が市民活動団体、市民、企業、学校、行政が一緒になってやっているところは、他にはないと思われる。私は神奈川県環境カウンセラー協議会で環境教育を担当しており、その全国連合会もあるが、横須賀市の環境教育は先進的で、環境教育のシステムが出来上がっているで紹介している。特に神奈川県の他の自治体を見ると、ここまで環境教育をやっているところはないと思う。例えば環境教育指導者派遣事業があり、神奈川県も横浜市も同じような制度は持っているが、プログラムを与え、一年間の計画を5月末までで受付を締め切るというかたちでやっている。これでは学校側として問題があるので、環境学習をやりたいときにいつでも依頼できる横須賀市はすごく効果的でないかと思っている。我々にとっては当たり前かなと思っていたが、他はまだそこまでいっていないようだ。横須賀市の環境教育に携わってきていただいた方々の努力の賜物だと思っているし、今後も活動を続けてより良い横須賀市の環境教育を、そして我々がそれを担って協力できればと思っている。長い間、ありがとうございました。それでは、事務局からお願いしたい。

#### 小澤課長（事務局）

本日は大変貴重な意見をいただきましてありがとうございました。なるべく反映できるように努力していきたいと思う。

最後に私の方からお礼とお願いをさせていただく。

任期はまだ7月末までだが、第二期「環境教育・環境学習ネットワーク会議」のご出席、また事業にご協力いただき、大変ありがとうございました。二年間の会議では主にトライアル事業を実施してきたが、市内の環境関連事業の一元化と情報発信については、おかげさまで「よこすかECO通信」を年4回発行しており、ご協力いただきながら進めている。今後共、引き続き充実した内容にしていきたいと思っているので、ご協力お願いしたい。また、もう一つの相互交流を生かした人材育成講座については、皆さんにご意見をいただいているところだが、自然観察会や学校における環境学習の紹介、また、事業者における環境学習の取り組みの見学を行ってきた。今年度最後になるが、本日も貴重なご意見をいただいたが、これまでご意見いただいたものを更にきちんと反映していきたいと思う。来年度はトライアルが終了するが、内容はすべて型にはまって決まったものではなく、なるべく流動的で、皆さんに意見をいただきながら進めていきたいと思っている。引き続き皆さんの生のご意見をいただきながら進めていきたい。先程、主査から次期委員の就任の意向の確認の話があったが、ぜひ皆さんに残っていただいて引き続き委員をお引き受けいただきたいと思っている。この場をお借りしましてお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

#### 高橋会長

それでは、これで本日の会議を終了する。